

明石市における自殺者の特徴について

効果的な自殺対策を推進していくためには、自殺の原因や背景、自殺者の特徴的な属性など自治体における自殺の実態を分析・把握し、計画づくりや取組方針に反映させることが求められる。

そのため、一般社団法人いのち支える自殺対策推進センター（厚生労働大臣指定法人）が全自治体の自殺実態をまとめた「地域自殺実態プロファイル」を利用し、本市における自殺の実態を次のとおり分析した。なお、「明石市自殺対策計画」策定時との経年比較ができるよう直近のデータと対比させている。

【「地域自殺実態プロファイル」に含まれる情報】

- 地域の自殺者の特徴
- 属性(男女、年齢、同居人の有無、雇用状況、自殺未遂歴など)別の自殺者数
- 学生・生徒等の自殺者数
- 自殺の手段別の自殺者数
- 地域の事業所数、従業者数
- 住民の悩みやストレスの状況、こころの状態 など

【自殺者の特徴（2016年時点、計画策定時）】

上位5区分		自殺者数 5年計	割合	背景にある主な自殺の危機経路
①	男性 60歳以上無職同居	31人	11.4%	失業（退職）→生活苦+介護の悩み（疲れ）+身体疾患→自殺
②	女性 60歳以上無職同居	26人	9.5%	身体疾患→病苦→うつ状態→自殺
③	男性 40～59歳有職同居	24人	8.8%	配置転換→過労→職場の人間関係の悩み+仕事の失敗→うつ状態→自殺
④	男性 60歳以上無職独居	23人	8.4%	失業（退職）+死別・離別→うつ状態→将来生活への悲観→自殺
⑤	男性 40～59歳無職同居	21人	7.7%	失業→生活苦→借金+家族間の不和→うつ状態→自殺

※出典：地域自殺実態プロファイル 2017（JSSC2017）

※ 1 順位は自殺者数の多さに基づきます。

※ 2 区分については、自殺で亡くなる人の割合が多い属性（性別×年代別×職業の有無別×同居人の有無別）を示しています。

※ 3 「背景にある主な自殺の危機経路」とは

NPO法人ライフリンクが行った500人以上の自殺で亡くなった方についての実態調査から、自殺は、平均すると4つの要因が連鎖して引き起こされており（参考：図1）、それらの要因の連鎖のプロセス（「自殺の危機経路」という）は、性、年代、職業等の属性によって特徴が異なることが明らかになりました。（『自殺実態白書2013』（NPO法人ライフリンク））



【自殺者の特徴（2021年時点）】

上位5区分		自殺者数 5年計	割合	背景にある主な自殺の危機経路
①	男性 60歳以上無職同居	32人	12.3%(↑)	失業（退職）→生活苦+介護の悩み（疲れ）+身体疾患→自殺
②	男性 40～59歳有職同居	27人	10.3%(↑)	配置転換→過労→職場の人間関係の悩み+仕事の失敗→うつ状態→自殺
③	男性 20～39歳有職同居	21人	8.0%(↑)	職場の人間関係/仕事の悩み(ブラック企業)→パワハラ+過労→うつ状態→自殺
④	男性 60歳以上無職独居	17人	6.5%(↓)	失業（退職）+死別・離別→うつ状態→将来生活への悲観→自殺
⑤	女性 40～59歳無職同居	16人	6.1%(↑)	近隣関係の悩み+家族間の不和→うつ病→自殺

※出典：地域自殺実態プロファイル 2022（JSCP2022）